

社会学教育における情報教育のガイドライン

【到達目標 1】

社会的な問題について、多様な情報を適切に収集・整理・比較し、相対的に捉えることができる。

【到達度】

多様なフィールドやメディアに遍在する情報について、その所在・構成・背景を理解し、利用できる。

情報の信頼性を識別でき、著作権や情報の剽窃などに関する倫理を理解して利用できる。

情報検索とワープロ、表計算などの基本的な情報処理ができる。

【教育内容・教育方法】

は、実際にWebにアクセスさせて、社会的な問題に関する映像・画像・音声・ファクトデータなどの重要性を理解させるとともに、フィールドや文献との関係を理解させる。

は、講義などにより、信頼性と倫理について、具体的事例を通じて理解させる。

は、初年次教育などで基礎的なスキルを身につけるとともに、実際に使用させレベルアップを図る。

【到達度確認の測定手段】

～ は、レポート、小テスト、プレゼンテーションなどで確認する。

【到達目標 2】

収集した情報をもとに、社会的な問題についての実証的な分析をすることができる。

【到達度】

収集した情報を、分析に必要なデータの形にするために整理・加工することができる。

量的データ・質的データを分析する機材やソフトを使用できる。

分析結果について批判的に捉えることができる。

【教育内容・教育方法】

と は、演習科目・調査科目などにより、収集したデータの整理・加工と分析を自ら体験させる。

は、他の事例と上記の分析結果との比較・検討を体験させる。

【到達度確認の測定手段】

～ は、テスト、レポート、プレゼンテーションなどにより確認する。

【到達目標 3】

ICTを活用し、研究成果を発表し、発信することができる。

【到達度】

適切なメディアを利用して、研究成果を発表することができる。

ICTの特性に応じて、適切な批判・評価・コミュニケーションを行うことができる。

発表内容に関する情報を適切に管理することができる。

【教育内容・教育方法】

と は、演習・卒業論文・報告会・合評会などにより、課題研究の成果を適切なメディアを通じて発表させ、他の発表に対して評価・コメントをさせる。

は、情報管理をめぐる事例研究を通じて、情報を共有し、適切な取り扱いについてディスカッションさせる。

【到達度確認の測定手段】

～ は、レポート、プレゼンテーション、論文などにより確認する。